

からす

フォト劇場 (42)

写真が生まれるものがたり

かつてわれ四人家族のときありき濡れ羽色の髪寄
せて笑ひて
吉田史子

交差点の近くで毎朝カラスと戯れている男性
がいた。通勤の車からチラリと見るだけなの
で、よくわからないが60代くらいか。餌をや
ったり肩に止まらせたりして、得意気でもあ
り、寂しそうでもあった。この頃は見ない。

電柱の上で井戸端会議するカラスよ君らも愚痴を
こぼすか
浦部晶夫

鴉は頭が良くて会話もしているようだが、ゴ
ミをあさって散らかすので嫌われている。青
いネットをゴミ袋の上に掛けたりして、人と
鴉との攻防戦が繰り広げられている。鴉も集
まって対策を練っているのだろうか。



明け空はからすの象かたちに切り抜かれ無限の闇みゆ電
線の上
矢沢靖江

朝明けの明るい空のなか、烏が電線に止って
いる。逆光の烏は、一瞬、その形に空が切り
抜かれたように見えた。切り抜かれた空には、
空の果てが見えているのだろう。見れば見る
ほど、どこまでも深い無限の闇である。

チンガラに巣を壊したる男ゐてその後からすに追
はれてゐたり
丸山克介

幼稚園の庭のがじゅまるの樹に、鴉が巣を作
った。子供達が怖がったので、保護者の男が
巣を壊した。皆喜んだが、さあ大変。次の日、
男は空から鴉の襲撃を受けたのだ。チンガラ
は、目茶苦茶の意（鹿兒島弁）。